

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価結果

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	みやき町立北茂安小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「学力の向上」に関しては、学力向上対策評価シートのマイプランの活用はできたが同学年内での共有が十分ではなかったため、情報共有の場を設定することが必要である。 「心の教育」に関しては、他者への思いやり、倫理観や正義感など、更なる心の育成が今後の課題である。いじめ防止等については組織的対応が実践できた。 「健康・体づくり」に関しては、登校班での登下校について地域・保護者とともに見守り、必要に応じて具体的な指導を行うことで、児童に安全・安心な生活についての意識を持たせることができた。
2 学校教育目標	<p>未来を切り拓く北っ子</p> <p>～共に学び、共に感じ、共に生きる児童の育成～【『共に』(みんなで一緒に助け合う、みんなの笑顔のために)】</p>
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎学び合う力、つながり合う心、磨き合う生活を育む。 ・北っ子一人ひとりに役割を持たせ、出番を与え、認め、励ます教育活動の推進 ・『共に』につながる「優しい心、強い心」を育む教育活動の推進

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	
●学力の向上	●全教職員による共通理解と確実な実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教職員の割合が、85%以上	マイプランの成果指標をもとに、学年で実践交流等話し合いを持ち、日々の実践に生かす。	A	●全職員がマイプランを通じた取り組みだけでなく、全職員による年2回の学力向上対策会議での本校児童の現状把握と授業改善への協議を行った。全国学力調査ではおおむね県平均を上回っているが児童の学力2極化は顕在化しており来年度も継続的に学力向上への取り組みを行いたい。	(学力向上担当)
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○子どもによる授業評価を学期1回程度行う	「子どもによる授業評価」や「北っ子スタンダード」、「授業改善リーフレット」をもとに、児童が主体的に取り組む授業、学習内容が分かる授業、力がつく授業を行う。	A	●各学年で授業を見合ったり同じ指導案で授業を行ったりするなど、授業改善に向けての教員の意識の高まりが感じられた。アンケートでは87%以上の児童が「授業が楽しい」と答えている。来年度は児童の学力2極化への対策に焦点を当ててさらなる授業改善を進めていく。	(学力向上担当)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童の割合が、70%以上。	●授業では、振り返りの時間を設け、これからの自分の生き方について考えさせることで、思いやりや善悪の判断、生命の尊さについて気付かせ、他者と共によりよく生きようとする心を育む。	A	●道徳に関するアンケートにおいて、道徳の時間が好きだと答えた児童が92%。授業の中で、思いやりや命の大切さを実感し、今後の生活に生かそうと考えた児童が96%(どちらも、そう思う、まあまあ思うを含む)となり、目標達成できた。今後も日々の教育活動で豊かな心の育成に努めていく。	(道徳担当)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていますと回答した教職員の割合が90%以上	●日常的な観察やアンケートの実施による早期発見。 ●ケース会議や生徒指導協議会による早期対応と共通実践。	A	●学校生活アンケートによる早期発見、事案発生時の早期対応など学年、学校全体と組織的対応ができていた。物隠しや落書き等、未解決事案に関しては、今後も注視していきたい。 ●「しんけん集金」へ向けて各学年で人権標語を考えたり、代表委員会で「北小なかよし宣言」を考えたりした。集会後の児童の感想から思いやりの気持ちの高まりが感じられた。	(生徒指導担当)
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(6年生)の割合が80%以上	●将来や進路を見据え、必要な礼儀作法を身に付けさせるための『共に』マナー教室(6年生)を実施する。 ●卒業に向けて、将来の自分について具体的に考えさせるために、「夢の教室」などの取組を行う。	A	●サガン鳥栖の元選手を講師として招き、「夢の教室」を実施した。夢の実現に向けての助言をもらい、未来への期待を膨らませた。また、佐賀新聞社の「みんなの夢」で、自分の夢についてじっくりと考え、95%以上の児童が将来に対し肯定的な回答をすることができた。	(特別活動・6年生)
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」	②登校班で安全安心に歩いて登校できた児童の割合が95%以上	●HPや各種便り、メール配信により保護者への啓発と協力をお願いをする。 ●生活朝会、地区児童会、登校班長会等で、徒歩登校について指導する。	A	●不審者、危険動物の出没などの情報を共有し、地域や警察との連携を図りながら、登下校時の安全向上に努めた。緊急性のある案件については、マチコメールを用いて、保護者へ可能な限り迅速な情報提供を行っている。 ●学期の始めに安全な登下校についての指導を行った。必要に応じて登校班の事情を聞き取り、直接の指導を行った。	(安全防災・地区指導)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間を超えない)を遵守する。	●削減・効率化を視点に行事や業務の精選と見直し、ICTの活用を進める。 ●19:00に施錠完了とし、金曜日を定時退勤日(18:00施錠)に設定する。 ●時間外勤務表で勤務実態の把握を行い、業務改善に努める。	B	●退勤時刻を意識して業務ができ、概ね予定の退勤時刻で施錠できるようになった。 ●時間外勤務時間の上限(月45時間)を超える職員が一定数いるため、さらに業務の「削減」「効率化」の取組を進めていく必要がある。	教頭
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	
○教職員の資質向上	○校内研究の充実 ・「自ら考え、共に学ぶ児童の育成」の研究テーマのもと、全職員で授業研究会に取り組む。 ・年3回講師を招聘した全体研を開き、授業力の向上を図る。	●授業力が向上したと回答する教師が9割を目指す。 ●伝え合うことが好きと回答する児童が8割を目指す。	●年間、算数一単元の授業実践を各学年で、取り組む。 ●身に付けさせたい力の系統性を見直し、伝え合う活動の充実を図る。 ●算数科の学習に関する児童の意識調査を12月に実施し比較・分析を行う。	A	●各学年の授業研や特別支援部の実践交流で、児童の問いを引き出しながら進める授業のスタイルを全職員で共通理解し、日々の授業づくりに生かすことができた。また、専門部で「伝え合いめざす児童像」や学力向上についての研修も進めることができた。 ●算数アンケートの結果、「算数が好き、分かる」と回答した児童が8割～9割だった。一方、「伝え合う活動を好き」と答えた児童が約7割で、児童の伝え合う力を高めることが課題である。	(校内研究)

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 「学力の向上」に関しては、学力向上対策評価シートのマイプランの活用や、学力向上対策会議での本校児童の現状把握と授業改善への協議を行うことができた。来年度は学力2極化への対策に焦点を当て授業改善を進めていくことが課題である。 「心の教育」に関しては、道徳の授業や人権集会等で、思いやりや命の大切さを実感する児童の育成に取り組むことができた。来年度も継続し、日々の教育活動で豊かな心の育成に努めていく必要がある。 「健康・体づくり」に関しては、登校班での登下校について地域・保護者とともに見守り、必要に応じて具体的な指導を行うことで、児童に安全・安心な生活についての意識をもたせることができた。
----------------	---